

編集委員会

編集委員長：船戸弘正
編集委員：狩野修
村上義孝
大塚由一郎
田中京子
編集顧問：中野裕康

松田尚久 三上哲夫
内藤篤彦 南木敏宏
佐野厚 高橋寛
津熊久幸

(ABC順)

編集後記

若手医師が最初を書く英語論文といえば、“症例報告”が多いのではないだろうか？一般的に低く評価されがちではあるが、臨床神経学の歴史を振り返ると、パーキンソン病、ALSなども含め、ほとんどの疾患が“症例報告”により存在が見いだされてきた。近年、その症例報告の投稿先に私自身迷うことが非常に多くなってきた。出版社からすると、症例報告は引用されにくいいため、雑誌のIFを下げる要因として敬遠される傾向にある。そのため、PUBMED掲載有、IF有、投稿料無という組み合わせが限定され、どれかを犠牲にしなければならない状況になってきている。Case Report専門のジャーナルも年々増えてはいるが、ハゲタカジャーナルも多く紛れており注意を要する。歳月を重ねて実施してきた研究とは異なるため、できるだけ1回でアクセプトされたいと願うのだが、リジェクトされると、投稿先を決めた上司として責任を痛感してしまう。以前より、多忙な若手教室員に最小限の労力で論文アクセプトしてほしいと考えていたところ、Cureusというオープンアクセスジャーナルに出会った。IFなしもPUBMEDに掲載されるSpringer Natureの雑誌である。投稿料も基本的に無料で、ホームページをみると採択率が50%を超えていた。リジェクト時に気持ちがりセットされないよう、初回投稿時に次の投稿先も決める工夫が重要で、今後はターゲットジャーナルの次はCureusへの投稿を推進しようと考えている。

小生は、2年前より医学メディアセンターの委員を担当している。近年、メジャーな統計ソフトは、高額かつサブスクになり、自費での購入は不可能になってきた。このような状況の中、産婦人科教授の片桐委員長のご尽力により、今年度から本学において、統計ソフトのJMPが無料でインストール可能になった。さらに円安の影響で大学が払えない電子ジャーナル購読料と研究者が支払う掲載料の高騰に対抗すべく、「転換契約」が出来ないか現在検討中である。是非とも大学の支援に期待したい。

(狩野 修)

東邦医学会雑誌 第70巻 第3号

令和5年9月1日発行

編集兼 船戸弘正
発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学部2号館M1階 医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3764-1642

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎